

第 2 学年国語科学習指導案

児童 2年2組 男18名 女16名 計34名
指導者 鈴木美由紀

聞き合うことの楽しさを味わわせ、話題に沿って聞き合う力を育てる学習活動の工夫

1 単元名 すすんで話したり聞いたりしよう (学習材名「何に見えるかな」光村2年下)

2 単元について

(1) 児童の実態

児童はこれまでに、「わたしのたからもの」では、自分の宝物とそのわけを話し、友達の宝物について、詳しく知りたいことを質問しながら聞く学習をしてきた。また、「あったらいいな、こんなもの」では、自分の考えた発明品について、順序に気をつけながら分かりやすく話したり、友達の発明品を聞いて分からないことを質問したりする学習をしてきた。これらの学習を通して、大事なことを落とさないように気をつけて聞く力や、友達の話を分かろうとして聞き合おうとする態度が少しずつ育ってきている。しかし、話題が変わったときに、話題に沿って質問する力は十分とは言えない。また、話を聞いたことに対して自分の感想を伝えられない児童も見られる。

そこで、本単元では、話題に沿って聞き返したり、自分の思ったことを伝えたりしながら、楽しく聞き合う力を付けていくことが大切であると考え。

(2) 主たる指導事項と学習材

本単元の主たる指導事項は、「互いの話を集中して聞き、話題に沿って話し合うこと」である。本単元では、「友達の話について、分からないことや詳しく知りたいことを話題に沿って聞き返したり、感想を伝えたりする」ことが指導の中心である。

このような力を育てるために、学習材として「何に見えるかな」を用いる。「何に見えるかな」では、色紙を自由にちぎった図形について、何に見えるかを考え、互いの見えた形について交流する活動を行う。ちぎった図形について、偶然にできた形から児童は興味をもって考えたり、相手と自分の発想の違いに気づいたりすることでおもしろさや不思議さを感じることが出来る学習材である。

この学習材を通して、ちぎった図形が何に見えるかとその理由を聞き取り、分からないところや曖昧なところについて確かめる質問をすることで、話題に沿って聞き合う力が高まるであろう。また、同じ形でも、見方によって違うものに見えることに気づくことで、聞き合う楽しさを感じ取ることが出来るであろうと考える。

(3) 指導に当たって

指導に当たっては、次のように進めたい。

単元のみとおす段階では、教師がちぎった簡単な図形を見せ、何に見えるかを自由に発想させる。いろいろな形を出させることで、これからの学習への興味・関心をもたせたい。

ふかめる段階では、まず、児童一人一人に色紙を自由にちぎらせ、自分がちぎってできた図形について、何に見えるか考えさせ、発想することの楽しさを味わわせる。次に、1つの図形について、2人で何に見えるかを聞き合う活動を行う。その際、モデル対話を示すことで、対話の仕方を理解させるとともに、どんな質問をすればよいか、どのような感想を話せばよいかについても理解させて対話を進めたい。その後、3～4人のグループで聞き合う活動を行い、1つの図形について、何に見えるかいろいろな発想を出させる。その中で、人それぞれの見方があることに気づかせ、グループでの聞き合いの楽しさ味わわせたい。この活動が、次時のクイズ大会につながる事となる。

まとめる段階では、グループ毎に出された形についてクイズを出し合う。ここでも自由に発想させ、いろいろな見え方について気づかせ、全体での交流の楽しさを味わわせたい。

3 単元目標

(1) 国語への関心・意欲・態度

- ・ちぎった図形について興味をもつ。
- ・友だちと楽しんで聞き合おうとする。

(2) 話すこと・聞くこと

- ・友だちが見えた形について、分からないことを質問したり、感想を伝えたりしながら聞き合することができる。

(3) 伝統的な言語文化と国語の特質に対する事項

- ・主語と述語との関係に注意することができる。

4 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 話す・聞く能力	ウ 言語についての知識・理解・技能
①ちぎった図形に興味をもっている。 ②友だちと楽しく聞き合っている。	①友だちの見えた図形について、分からないことを質問したり、感想を伝えたりしている。	①主語と述語との関係に注意して話している。

5 学習指導計画（5時間扱い）

【関連する前の単元】

- 「わたしのたからもの」
○ 友だちの宝物について質問して詳しく聞き合う。

【スピーチ学習】

- 「楽しかったこと」
○ いつ、どこで、誰と何をしたかが分かるように話す。

段階	学習課題	学習活動と時間	評価規準（方法）
みとおす	○「何に見えるかな」の学習計画をたてよう。	・これからの学習の見通しをもつ。 ・教師のちぎった図形が何に見えるか考える。 (1)	アー①「何に見えるかな」に興味をもち、図形が何に見えるか考えようとしている。 (挙手・発言)
ふかめる	○ちぎった形が何に見えるか考えよう。	・色紙をちぎり、いくつか形を作る。 ・ちぎった形が何に見えるかを考え、見えた形とそのわけをノートに書く。 (1)	アー①ちぎった形が何に見えるかを考えたり、そのわけを進んで考えようとしている。 (ノート・観察)
	○何に見えるか友だちと聞き合おう。	・対話の仕方を知る。 ・ちぎった形が何に見えるか2人組で聞き合う。 本時(1)	イー①友だちの見えた形について、分からないことを質問したり、思ったことを伝えたりしている。(対話の観察・発言・学習シート) アー②友だちと楽しく聞き合っている。(対話の観察・発言・学習シート)
	○何に見えるかグループで聞き合おう。	・グループでの聞き合いの仕方を知る。 ・ちぎった形が何に見えるかグループで聞き合う。 (1)	イー①友だちの見えた形について、分からないことを質問したり、思ったことを伝えたりしている。(対話の観察・発言・学習シート) アー②友だちと楽しく聞き合っている。(対話の観察・発言・学習シート)
まとめ	○「何に見えるか」クイズ大会をしよう。	・何に見えるかグループ毎にクイズを出し合う。 (1)	イー①クイズを聞き、何に見えるか考えようとしている。 (挙手・発言) ウー①主語と述語の関係に注意して話している。(発表)

【生かす単元】 「ことばって、おもしろいな」

- おもしろい表現のことばについて、順序を考えて話したり、大事なことを落とさずに聞いたりしながら、クイズを出し合う。

6 本時の指導

(1) ねらい

- ・ちぎった図形について、友だちと楽しく聞き合おうとする。(対話の情意的要素)
- ・友だちの考えた形について、分からないことを質問したり、感想を伝えたりすることができる。(話すこと・聞くこと)

(2) 展開

段階	学習活動 (○発問・指示)	時間 (分)	◇学習内容	教師の関わり方 ☆評価(方法)
みとおす	1 前時の学習を想起する。 2 本時の学習課題を確認する。 「何に見えるか」友だちと聞き合おう。	5		
ふかめる	3 モデル対話を聞く。 ○聞き合いの仕方に気を付けて聞きましょう。 4 ちぎった図形について聞き合う。 (1) 1回目の対話を行う。 (2) 対話の様子を振り返る。 ○友だちから思ったことをどのように言われましたか。 (3) 2回目の対話を行う。	15 7 6 7	◇聞き合いの仕方を知ること。 ・見えた形とそのわけを話す。 ・詳しく知りたいことを質問する。 ・相手の考えを聞く。 ・思ったことを伝える。 ◇分からないことを質問したり、思ったことを伝えたりしながら、聞き合うこと。 A「わたしが見えた形は、○○です。」(見えた形) A「わけは、□□が～～に見えたからです。」(見えたわけ) B「どこが、□□ですか。」(質問) B「○○は、～～ですね。」(確かめる質問) A「Bさんには、ちぎった形が何に見えますか。」(相手の考えを聞く) B「～～さんのちぎった形が○○に見えて、～～が不思議だなあ(おもしろいなあ)と思いました。」(感想)	・教師のモデル対話を聞き、聞き合いの仕方を理解させる。 ☆①友だちと楽しく聞き合っている。 (観察・学習シート) ☆②友だちのちぎった図形について、分からないことを質問したり思ったことを伝えたりしている。(観察・発言・学習シート) [努力を要する子への手立て] 友だちのちぎった形について、板書を参考に質問を促したり、思ったことを伝えるように促したりする。 ・大事なことを落とさないで聞くことを確認する。 ・友だちの考えた形について驚いたことや嬉しく思ったことなどの伝え方を取り上げる。
まとめる	5 学習のまとめをする。	5	◇感想を発表し、学習を振り返る。	・友だちの考えが分かり合えたことを認め、次時の意欲づけとする。